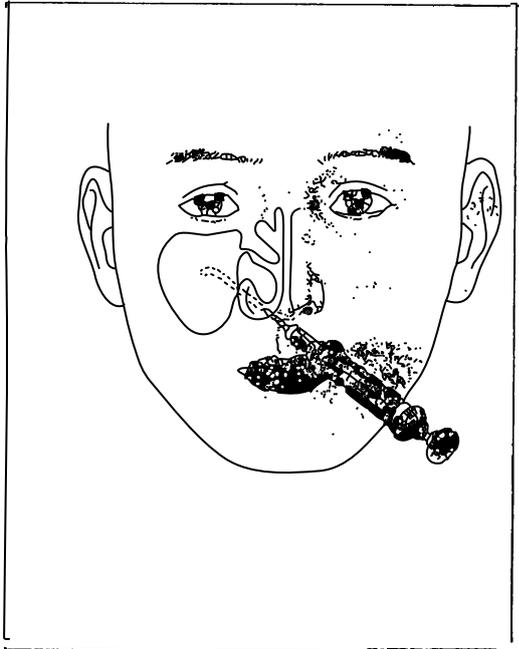


上顎洞試験穿刺（じょうがくどうしけんせんし）

鼻のわきの頬の骨の中に、上顎洞（じょうがくどう）という洞穴があります。上顎洞の中に炎症がおこり、膿（うみ）がたまった状態を、“ちくのうしょう”といいます。耳鼻咽喉科専門医は鼻の状態を見て、“ちくのうしょう”が疑わしいと考えた時は、まずレントゲン検査を行います。そして、レントゲンで、“ちくのうしょう”を思わせる所見がみられると、さらに確定診断と、治療をかねて、図の様に上顎洞試験穿刺を行います。



レントゲンは、膿汁がたまっているかどうかを写真上の陰として見るだけですが、上顎洞試験穿刺は、膿汁を直接、目で見る事が出来るので、“ちくのうしょう”の確定診断になります。上顎洞試験穿刺は、膿汁を洗い流してしまうので有効な治療となり、“ちくのうしょう”の苦痛をとる事が出来ます。病状によっては、上顎洞試験穿刺の後、上顎洞の中に、抗生剤を直接注入します。この方法は、抗生剤を内服するよりはるかに有効です。

上顎洞試験穿刺によって、片方の上顎洞からのみ、悪臭の強い膿汁が排泄された場合は虫歯が原因の“ちくのうしょう”が疑われます。すぐに歯科の治療を受けてください。

上顎洞試験穿刺は、患者さんにとって、気持ちの良い検査ではありませんが、ちくのうしょうの診断、治療には、必要な医療行為なのです。この事を良く御理解いただいて、必要な時は、積極的に上顎洞試験穿刺を受けてください。慢性ちくのうしょうになって手術を受ける事の苦痛を考えたら、上顎洞試験穿刺の苦痛など軽い事です。

上顎洞試験穿刺を行った日は、少量の出血がありますが心配しないで下さい。

矢野耳鼻咽喉科	藤沢市善行 1-25-11	8 1	3 5 4 1
医学博士	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	潮
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	ゆかり
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	さゆり